ジェンダーフリー教育！男女合同全裸身体測定

保健室の扉が閉まる音が、いつもより重く響いた。

3年2組の38人が、ぞろぞろと中に入ってくる。普段なら元気で笑い声を上げているのに、今日は誰も口を開かない。白いタイルの床、消毒液の匂い、蛍光灯の冷たい光——すべてが、今日の特別な空気を強調していた。

「はい、みんな揃いましたね。では始めましょう」

保健の佐藤先生は、白衣のポケットに手を入れたまま、穏やかに言った。いつも通りの柔らかい声なのに、今日はなぜか威圧感がある。

「今年から本校でもジェンダーフリーの身体測定を実施します。なので男女で分けることはしません。正確なデータを取るためには、衣服による誤差を極力排除する必要があります。だから……全員、すっぽんぽんになります」

一瞬、息を飲む音が複数聞こえた。

健太が「マジか……」と小さく呟き、隣の大輔が健太を肘で突く。美咲は隣の遥と目を合わせ、あかりは

唇を噛み、真由は両手をぎゅっと握りしめている。

「恥ずかしい気持ちはよく分かります。でも、これは性差を意識しすぎない社会を作るための教育です。男女の区別は一切しません。では、上から順に脱いでください。ブラウスやTシャツからで構いません」

最初に動いたのは男子の翔だった。グレーのTシャツを頭から抜き、筋肉質の胸板が露わになる。続いて女子の彩花が、震える指でブラウスのボタンを外し始めた。一つ、二つ……ボタンが外れるたび

に、胸の谷間が少しずつ見えてくる。